



双塔

カトリック新潟教会

2016年12月
No. 343

神の憐れみの中にある人類の歴史

主任司祭 ラウール・バラデス

マタイ福音書の冒頭にあるイエス様の系図を読む時に、聞きなれない旧約聖書の名前を次から次に目にします。中々、難読なところですよ。このたび、聖書勉強会でパークレー氏の解説に出会いましたのでそれを簡単に紹介させてください。

パークレー氏によれば、系図の配列には人間の全生涯が象徴されていて三つの区分は人類の精神史の三段階を示します。*

(1) 人は偉大なものとして創られた。

人間は神のかたちにかたどって造られたのである。神が人間に対して持たれた夢は偉大な夢であった。人間は神と交わるためにつくられた。人間は神と心の通うものになるために創られたのである。

(2) 人はその偉大さを失った。

人間は自由意志を用いて、神の友となることも神と交わることもせず、かえって神を無視し、神に背いてしまった。神の友とならずに、神の敵となった。

(3) 人はその偉大さを回復した。

神は人間を見離さず、勝手なふるまいをゆるされなかった。神は人間が自らの愚かさのために滅んでゆくを見過ごしにされなかった。人間の運命を悲劇に終らせようとはされなかった。この世に、神はそのひとり子イエス・キリストを送り、イエス・キリストが人間を罪の泥沼から引きあげ、束縛されている罪の縄目から解き放ち、キリストを通して、ひとたび失った神との交わりを回復させようとしたのである。

イエスの系図を通してマタイが示すものは、人間が王としての身分を与えられたこと、その自由を悲しくも失ってしまったこと、そして、光栄にも自由を再び与えられたことであった。これこそが、神の憐れみの中にある人類の歴史であり、個人の歴史なのである。

パークレー氏の指摘を受け止めて、クリスマスの祝いに向かっていく私たちが、この三つの段階のどれに立っているのかについて黙想するよう招かれています。人間としての偉大さを実感し、それに感謝をもって神の友になるという招きです。これこそ神の憐れみの中にある人類の歴史、また、私たち一人一人の歴史で、しあわせへの道でもあるのです。

[*] パークレー著、マタイ福音書上、ヨルダン社 1967



■ 信仰養成講座 ---- 10月29日(土)、11月5日(土) 13:30 ~ ----

『ラウダート・シ』に学ぶ、キリスト者の生きる道」をテーマに、菊地司教様による信徒養成講座が2週に亘って行われた。『ラウダート・シ』は単に環境問題への警告ではなく、「人間がどのように生きるのが相応しいのか」を説いている文書であると話を始められ、「温暖化と貧困問題」や「生物多様性の喪失」などの具体例を挙げられた。2週目はそれらを前提として、「創世記1・26-28」を取り上げ、神から人間に与えられた使命を説明。「人は何のために生きるのかを考えなければ何も改善されない」と話された。講座終了後、会場の出口付近で、杖をついたご婦人の会話「よいお話でしたね。来てよかったわ」の立ち話が耳に残った。

■ 『いつくしみの特別聖年』扉閉門ミサ、子どものためのミサ----11月13日(日) ----

閉幕ミサ 20日(日) ---- 昨年12月8日から始まった『いつくしみの特別聖年』は、「王であるキリスト」の祭日に、バチカンで行われた教皇様のミサをもって閉幕された。その1週間前、各小教区では聖年の扉が閉じられ、新潟教会では菊地司教様の司式で閉門ミサが行われた。具体的に扉を閉める式は含まれず、回心の祈りと拝領後の聖母賛歌が普段と異なる点のミサであった。司教様は説教で「神のいつくしみに包まれている私たちだからこそ、いつくしみを他者にも分け与えることができるように努力していきましょう」と強く呼び掛けられた。なお、ミサの中で子どもの祝福が行われ、ミサ後のセンターはミニバザーで賑わった。また、20日に司教様の司式で閉幕ミサが捧げられた。

みんなの広場

今月の“各部の紹介”は『信仰養成部』です。
何やら厳めしい名称の部なので、質問をしてみました！

質問1:スバリ、
「信仰養成部」
とは!?

答1:信仰養成の担い手は、神様とみなさん
お一人お一人です。信仰養成部は、そのお手
伝いをしたいのです。

質問2:例えばどんなふうに?!

答2:私たちの信仰は教会とともにあります。教会は2000年来、共同体として信仰を守り
受け継いでいます。そこにはたくさんの宝物があります。信仰養成部では、黙想会や信仰養
成講座などの企画運営を通して、ともに学び、分かち合い、次の世代にリレーしたいと考
えています。

質問3:具体的に行ってい
ることは?!

答3:毎月一回の信仰養成講座や待降節・四旬節の黙想会の企画・運営のほか、霊的花束の
準備も担当しています。 企画に興味のある方、ご参加をお待ちしています!!

